

国民の森林 国有林



中部森林管理局
木曽森林管理署 南木曽支署

<http://www.rinya.maff.go.jp/chubu/nagiso/index.html>

初夏のハナノキ

管内の特色

木曽路はすべて山の中

木曽森林管理署南木曽支署は島崎藤村の「夜明け前」の「木曽路はすべて山の中である」に紹介されるように、長野県木曽郡大桑村、南木曽町を管内とした森林42,822ヘクタールのうち、75パーセントの31,960ヘクタールの国有林を管理しています。



急峻な山間を曲がり流れる木曽川（南木曽町）

目次	お問い合わせ先
○概要 -----2頁	○住所
○主な業務 -----3	〒399-5301
・公益的機能発揮 ----4	長野県 木曽郡 南木曽町
・地球温暖化防止対策 -5	読書 3650-2
・林産物の供給 -----6	○電話 050-3160-6070
・国民参加の森林づくり-7	○Fax 0264-57-2686
○管内の観光地 -----8	
○森林官の目 -----8	
○お知らせ -----9	
○組織住所他 -----10	

暮らしを守る森林

管内の国有林は、海拔330メートルの木曽川沿の賤母（しずも）国有林から「日本の屋根」といわれる中央アルプス空木（うつぎ）岳2864メートルの山岳地帯まで広く分布し、その多くが急峻です。



・空木岳（南駒ヶ岳から望む）

特に木曽川左岸は風化した花崗岩地帯に加え降水量も多く、過去には、地域で「蛇拔（じゃぬけ）」と恐れられる土石流災害も発生しましたが、復旧治山工事により豊かな森林が再生しつつあり、木曽川下流、中京圏の生活用水、工業用水の重要な水源の源流域でもあります。

これら国有林は、土砂崩れを防ぎ、水源を守るなど、私たちの生命や暮らしに欠かすことのできない多くの働きをしています。



・青く流れる阿寺溪谷（大桑村）

豊かに潤う森林

管内の国有林には、原生的な森林も多く分布し、希少種の生息地として学術的に重要な森林もすくなくありません。

また、管内の国有林は優れた自然環境に恵まれ、中山道「妻籠宿」の背景林あるいは、空木岳（日本百名山）、南木曽岳（日本三百名山）、田立の滝（日本の滝百選）、阿寺溪谷（日本の紅葉百選）など地域の観光資源として利用されています。

さらに、国有林から産出される樹齢百年を超える人工林ヒノキ等の木材は、地元伝統工芸はもとより、住宅や公共建築物、歴史的・文化的建造物などの材料として利用され、私たちの生活を豊かに潤いあるものにしてれています。



・荘厳な木曽ヒノキ



・柿其溪谷の紅葉

概要

沿革



藩有林時代 元和元年(1615年)

・江戸時代の築城、武家屋敷建築などで木材確保のため木曽谷の森林伐採が進み、森林資源が急速に失われた。尾張藩は(1665年)留山(とめやま)・巢山(すやま)制度により藩以外の伐採を厳しく規制する政策がとられた

官林時代、明治2年(1869年)

・版籍奉還によって「藩有林」は「官林」になる



御料林時代、明治22年(1889年)

・明治22年皇室典範の制定に伴い「帝室御料林」となり御料局木曽支庁妻籠出張所が設置され、後に帝室林野管理局に改組し、三殿、阿寺(野尻)出張所も設置された

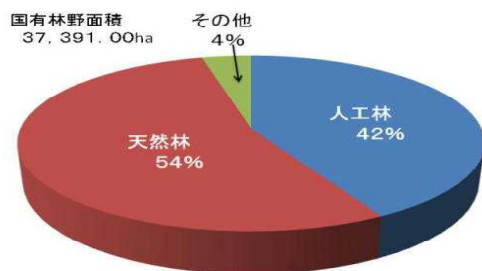
国有林時代、昭和22年(1947年)から現在

- ・昭和22年「御料林」は国有林に編入
長野営林局妻籠営林署、三殿営林署、野尻営林署、坂下営林署を設置
- ・昭和54年妻籠営林署を三殿営林署に統合
- ・昭和57年南木曽営林署(改称)、野尻営林署、坂下営林署
- ・平成11年中部森林管理局木曽森林管理署南木曽支署、野尻事務所、坂下事務所(改組)
- ・平成13年木曽森林管理署南木曽支署(統合)

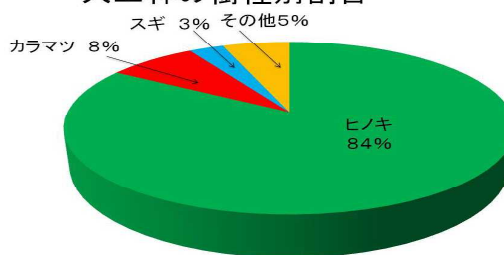
森林の内訳

国有林は、54%が針葉樹や広葉樹の天然林、42%がヒノキなどの人工林で、4%が高山帯の岩石地となっています。
(木曽谷森林計画区(南木曽支署分))

樹種別割合面積



人工林の樹種別割合

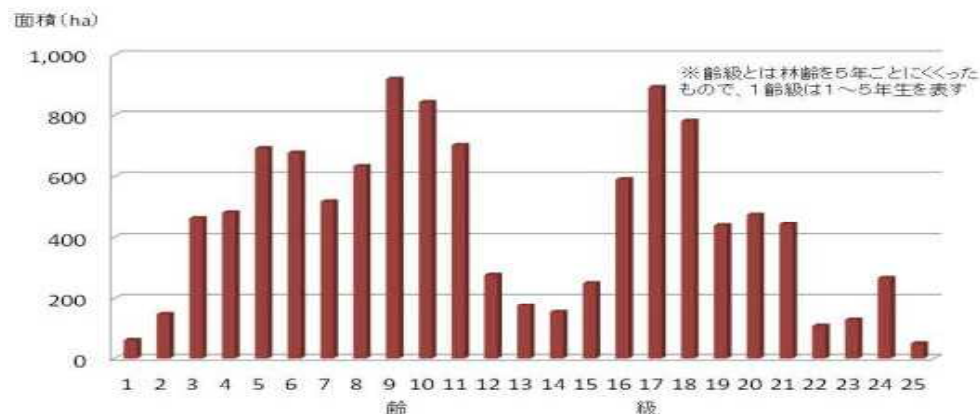


明治時代から育てたヒノキ林

・人工林においては、50年生(10齢級*)以下の生育期の林分が48%となっており、健全で活力ある森林の育成のため、また二酸化炭素吸収による地球温暖化防止のため、間伐などの森林整備を積極的に進めています。

・一方で、林業の先進地として明治、大正、昭和初期から森林整備を続け、現在70年を超えた(15齢級以上)のヒノキなどの人工林が40%を占め、次代の「木曽ヒノキ」として育ちつつあります。

人工林齢級別面積



長野県西筑摩郡吉妻村、妻籠出張所内蘭事業区、区割班三一の人工林の状況である。蘭事業区は全林業地面積の約三分の一、一三五haは人工林であつて、寫眞は明治三十九年に植栽せられた箇處で面積三〇ha八三を有し現在一ha當り本数は二、四四〇本、平均樹高は約九米、平均胸高直徑約一二種である。

公益的機能発揮

森林整備事業

- ・ 森林の公益的機能を発揮させ、地球温暖化防止のための二酸化炭素の森林吸収源対策を推進するため、間伐などの森林整備を計画的に実施し伐採年齢の長期化、複層林化、天然力を活用した針葉樹・広葉樹の混交林化など、百年先を見通した多様で健全な森林づくりを進めています。
- ・ 効果的・計画的に森林整備を進めるためには、路網の整備が不可欠であることから、その基幹となる林道・作業道などを開設しています。こうした路網の整備に当たっては、崩れにくく自然とも調和した工種・工法の採用と併せ間伐材の利用にも取り組んでいます。



治山事業

- ・ 治山事業は、自然災害により荒廃した森林に土木工事や緑化工事を施し、森林を造成するものです。こうした森林の維持・回復などを通じて、山地災害から国民の生命・財産を守るとともに、水源のかん養や生活環境の保全など安全で安心な豊かな暮らしの実現に貢献します。
- ・ [安全で安心して暮らせる国土づくり](#)
マキグレ沢災害復旧治山工事（長野県木曽郡南木曽町長者畑地籍）



優れた自然環境の維持保全

- ・ 保護林
希少な植物等が生育する森林の多様で貴重な森林生態系の維持・保存などを目的に保護林を指定しています。
- ・ 中央アルプス木曽駒ヶ岳森林生態系保護地域
4140ヘクタール（当署分2536ヘクタール）
気候が日本海型気候から太平洋型気候の推移帯、標高が低山帯から高山帯にある原生的で多様な生態系
- ・ 賤母ヒノキ等植物群落保護林
51ヘクタール（当支署分30.29ヘクタール）
暖帯、温帯の接点に当たり500種以上の植物が生育
- ・ 南木曽岳植物群落保護林673ヘクタール
木曽ヒノキ、コウヤマキ等の木曽五木その他、林床にキョウマルシャクナゲが生育



南木曽岳のコウヤマキの純林

- ・ 森林の保全管理
高山植物保護活動として、踏み荒らしなどの人的被害などから守るため、巡視員（グリーン・サポート・スタッフ）を配置しパトロールをしています。
また、有識者等の助言を得ながら地元の方と希少種の保護活動も行っています。



グリーン・サポート・スタッフ
による保護・啓発活動



秋のハナノキ



ボランティアの方々と
「ハナノキ保護活動」

安全で安心して暮らせる国土づくり

マキグレ沢災害復旧治山工事（長野県木曽郡南木曽町長者畑地籍）

- ・マキグレ沢の周辺は、地質的に、花崗岩の風化作用（マサ化：粗い砂状に碎ける）による脆弱な構造と、地形的に、局所的な集中豪雨が発生しやすい南木曽岳、摺枯木山からなる山岳地形によって、土石流がたびたび発生していました。そして、地元の人々は、その土石流があたかも黒い蛇が襲いかかるような様から「蛇抜（じゃぬけ）」と呼び、その昔から恐れていました。
- ・さらに、昭和34年の伊勢湾台風、昭和41年の南木曽災害（集中豪雨）によって、急峻な森林地帯には、多数の崩壊地（斜面表層崩壊）が新たにでき、そこからの崩壊土砂も下流に流れ出ていました。
- ・そして、当該地域は、人家や国道などが比較的近接していたことから、特に、災害復旧の緊急性・必要性が非常に高い地域でした。
- ・このため、当該地域の災害復旧では、治山計画としての『南木曽治山プラン』を策定し、1年目：土留工及び水路工等の骨工事、2年目：筋工や伏工等による緑化工、3年目：治山樹種の植栽と施肥による木本導入などを計画的に実施することにより、土砂災害防止機能の高い、豊かな森林の再生に努めました。

○急峻な森林地帯には、昭和34年の伊勢湾台風、昭和41年の南木曽災害により、多数の崩壊地が発生していました。



○かつての崩壊地は、『南木曽治山プラン』に基づく治山工事により、豊かな森林が再生しつつあります。（平成13年撮影）



○森林の谷筋では、ほとんどの箇所では崩壊が発達し、崩落した土砂が本流のマキグレ沢まで流れ出していました。（昭和50年撮影）



○かつて荒廃していた山肌やマキグレ沢の沢筋には、豊かな森林が再生しつつあります。（平成13年撮影）



地球温暖化防止対策

森林は、光合成により大気中から二酸化炭素を吸収し、木材として炭素を貯蔵することで地球温暖化防止に重要な役割を果たしています。特に、健全な針葉樹の人工林などは、面積当たりの二酸化炭素の吸収量が多いことから、間伐などの適切な森林整備を行い、その健全性を保つことが重要です。

また、伐採した木材を住宅や家具などに利用することは、木材の中に貯蔵された炭素を固定し続けることであり、同様に地球温暖化防止に貢献します。

さらに、木材をバイオマスエネルギーとして用いることは、それによって二酸化炭素が排出されても、もともと大気中にあった二酸化炭素が戻るだけです。これによって化石燃料の使用を減らせば、地球温暖化防止に寄与することとなります。

間伐等の推進

人工林においては間伐などの森林整備を積極的に推進することによって、森林吸収源の参入対象となる健全な森林を効果的に増やしています。また、天然生林においても保安林の適切な管理のため必要な森林整備に取り組むこととしています。



昼でも暗い林（間伐実施前）



明るくなった林（間伐実施後）

木材の利用促進



林道や治山などの土木工事、庁舎建築への木材利用、間伐材を使った木製品の使用に積極的に取り組むほか、「木づかい運動」を通じ地球温暖化防止対策に資する木材利用の積極的なPRを推進しています。

- ・南木曽町妻籠宿の木橋（写真左）
- ・昭和36年築の庁舎も間伐材の「腰板」張りでリフレッシュ（写真右）



公共工事への間伐材の使用

治山・林道工事の実施に当たっては、木材の特性を考慮し、法面保護工などに間伐材を積極的に利用しています。



間伐材を利用した堰堤



林地残材を活用した木材チップ吹き付け（吹付時と2年後の比較）

林産物の供給

国有林では水源のかん養や自然環境の保全などを十分配慮しながら、間伐等の森林整備を通じて生産される木材の持続的かつ計画的な供給に努めています。
(JR南木曽駅に隣接する三殿土場に集積された間伐材の丸太)



木の文化を守るための取組



林産物の供給を通じて文化財の修復や伝統工芸の持続など、木の文化を守るための取組も行っております。

- ・「南木曽ろくろ細工」「蘭桧笠」(写真左)
- ・原皮師(もとかわし)による「檜皮*」の採取(写真右)

*木造文化財建築物の屋根に使われるヒノキの樹皮



低コスト・高効率作業システムの推進

将来にわたって安定的に木材を供給できるよう、木材生産の作業効率の向上とコスト削減に向けて、簡易で耐久性を有する作業路網と高性能林業機械を組み合わせた低コスト・高効率作業システムの普及・定着にも取り組んでいます。

また、人工林の間伐によって生産される丸太は住宅建築用柱材などのほか、合板や集成材などの加工用に供するといったような新たな大口の需要に向けて安定的に供給する「システム販売」も行っています。

作業路網



林業専用道



間伐した木材を集める(スイングヤーダー)



一定の長さに切断(プロセッサ)



仕分け(グラップル)



林道まで運搬(フォワーダ)



国民参加の森林づくり

森林は「緑のダム」ともいわれており、豊かな森林に囲まれた当地は、地元や中京圏などの「水のふるさと」になっています。また、これら森林は地域文化の基盤であり観光資源でもあります。
このことから、森の中で、森林の役割を学ぶ森林教室や視察会、地方行政や住民、各種ボランティア団体等と協働した森林整備などを通じて「国民参加の森林づくり」に取り組んでいます。

森林環境教育

職員が学校に出向いて行う出前森林教室や、植林・間伐などの森林・林業体験を行っています。



木の文化を支える森づくり



地域の伝統工芸、歴史的建造物などの継承に貢献するため、地域の協議会などと協定を締結し協働で森林整備を行うことにより、木の文化を支える森づくりに取り組んでいます。

- ・「檜皮の森」で原皮(もとかわ)師の研修会
- ・「南木曽伝統工芸の森」での森林整備



森林ボランティア活動への支援と連携

地域の森林づくりに取り組みたいといった地域住民や企業等のボランティア団体の支援や協働作業に取り組んでいます。



「名古屋シティ・フォレスター」
隊員による歩道整備



「エコクラブ」による修景作業



南木曽町との合同植樹祭



大桑村との合同育樹祭

管内の観光地の背景林

- 管内の森林の多くは溪谷や滝群と一体となった景勝地あるいは文化財の背景林でもあります。国土保全や自然環境との調和を図りつつ、トレッキング等を通じた森林浴など「レクリエーションの森*」づくりに取り組んでいます。また、中山道妻籠宿などの背景林は、重要伝統的建造物群保存地区、郷土環境保全地区にも指定されています。

*管内のレクリエーションの森「阿寺」「大平峠」「馬籠峠」「田立の滝」の風致探勝林の4箇所で466ヘクタール

・南木曽町中山道妻籠宿の背景の山（伊勢山）



エメラルド色の清流「柿其溪谷（南木曽町）、阿寺溪谷（大桑村）」 と日本の滝100選「田立の滝」



柿其溪谷（箱淵）



阿寺溪谷（犬帰りの淵）



田立の滝（天河滝）

森林官の目

国有林の管理の基本は「森林官」の林野巡視です。汗をかきますが、素晴らしい景色や植物にも巡り会えます。

- 中央アルプス（写真中央）
- 咲き乱れる高山植物



- シャクナゲ（左）
- ミヤマキンバイ（右）

森の中では

- 森の妖怪
（半世紀以上前の切株）
- カモシカの親子



希少種たち

- オオヤマレンゲ
- ヤクシマヒメアリド
- オシラン
- ササユリ

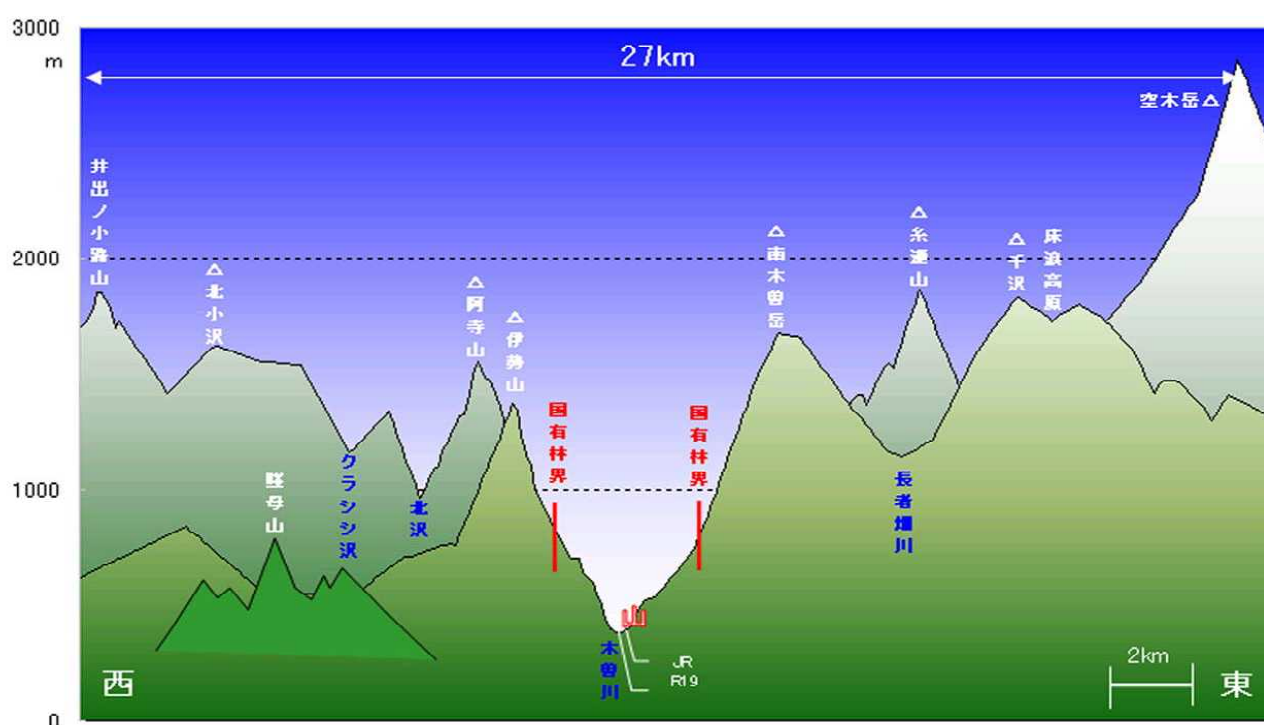
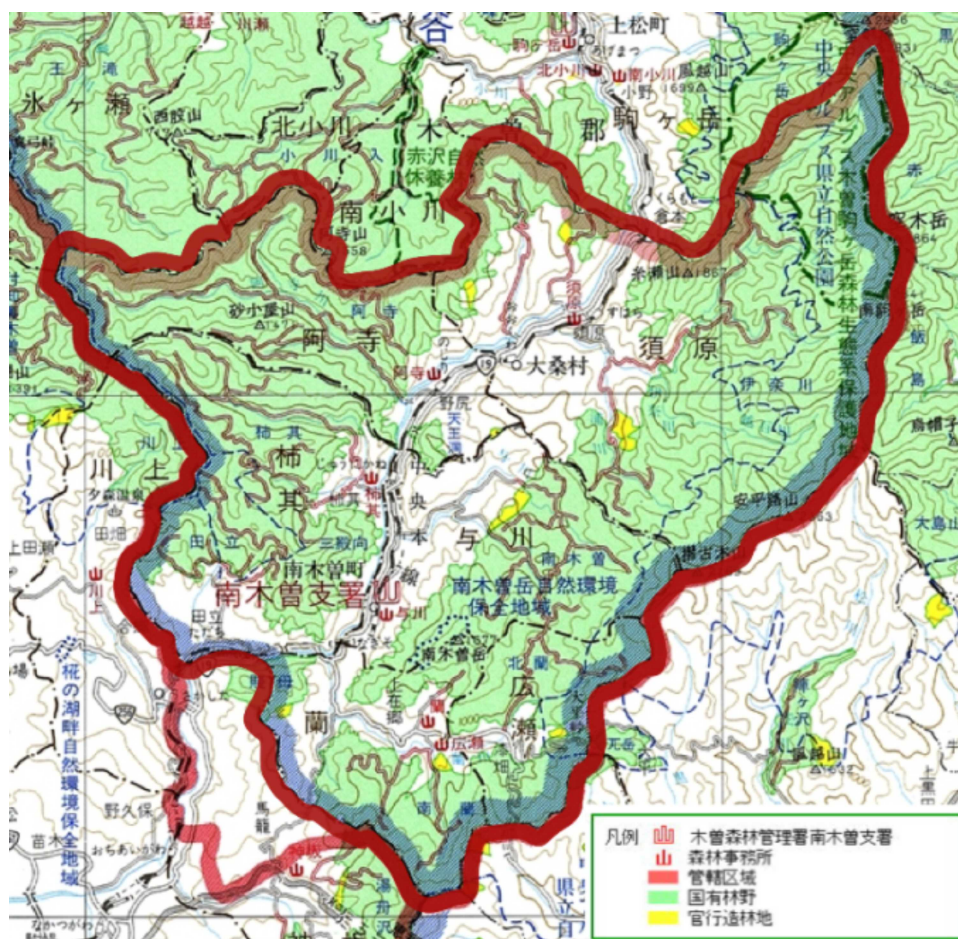


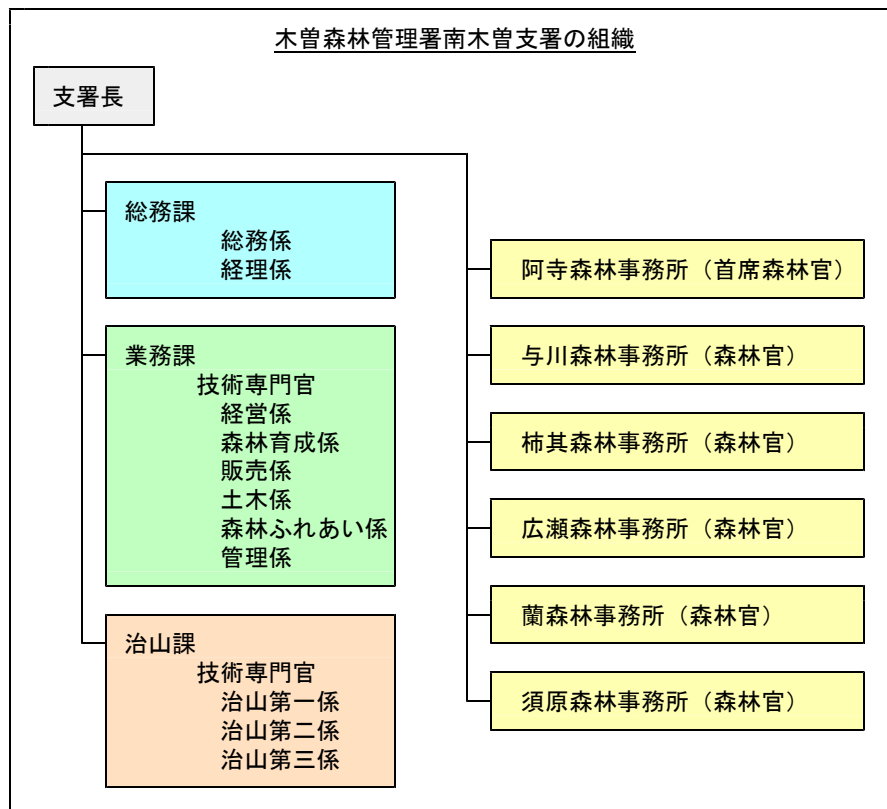
お知らせ

現段階でのお知らせはありません。

組織・位置など

・管内図





名称	住所	電話	ファックス
木曽森林管理署 南木曽支署	〒399-5301 長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	050-3160-6070	0264-57-2686
阿寺森林事務所	〒399-5504 長野県木曽郡大桑村野尻1223-1	0264-55-3215	0264-55-3215
与川森林事務所	〒399-5301 長野県木曽郡南木曽町読書3170-42	0264-57-3428	0264-57-3428
柿其森林事務所	〒399-5301 長野県木曽郡南木曽町読書1912-1	0264-57-3030	0264-57-3030
広瀬森林事務所	〒399-5302 長野県木曽郡南木曽町吾妻3934-2	0264-58-2051	0264-58-2051
蘭森林事務所	〒399-5302 長野県木曽郡南木曽町吾妻3398-3	0264-58-2418	0264-58-2418
須原森林事務所	〒399-5502 長野県木曽郡大桑村須原1058-1	0264-55-3051	0264-55-3051

